

(日置郡松元町仁田尾)

**位置と環境**

遺跡は JR 鹿児島本線松元駅の東2.4kmに位置し、標高約195mのシラス台地上に立地する。シラス台地は平坦に広がるものの深く開析が進行し、遺跡の西側には吹上浜に西流する水源の谷頭があり、東側には錦江湾に東流する水源の谷頭がある。遺跡は南北に延びる台地で、東及び西が台地縁辺という分水嶺地に所在している。

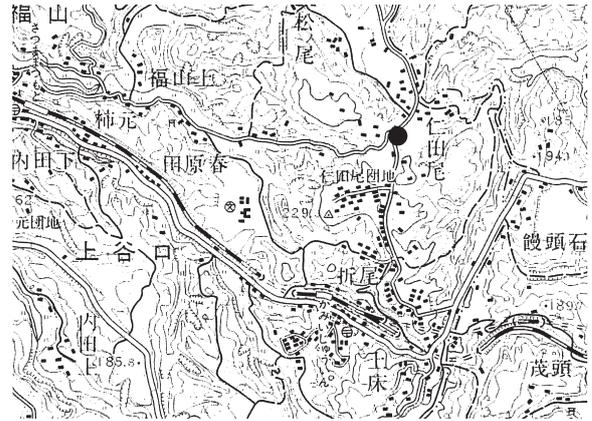
**調査の経緯**

調査は南九州西回り自動車道建設に伴うもので、平成5年から平成8年にかけて約12,000m<sup>2</sup>を対象に実施された。

**遺構と遺物****1 遺物包含層と火山灰**

本遺跡の土層堆積は良好であり、明確なテフラとしてIIIb層にアカホヤ火山灰、VI層に薩摩火山灰が厚く堆積しており、IX層がシラス（入戸火砕流）である。アカホヤ火山灰上位のIIIa層には縄文時代前期～晩期のものが、下位のIV・V層には縄文時代早期の遺構・遺物が包含されている。

薩摩火山灰層の下位VIIa～VIIb層上半には旧石器時代細石刃文化期が、その下位VIIIb層には旧石器時



第1図 仁田尾遺跡の位置

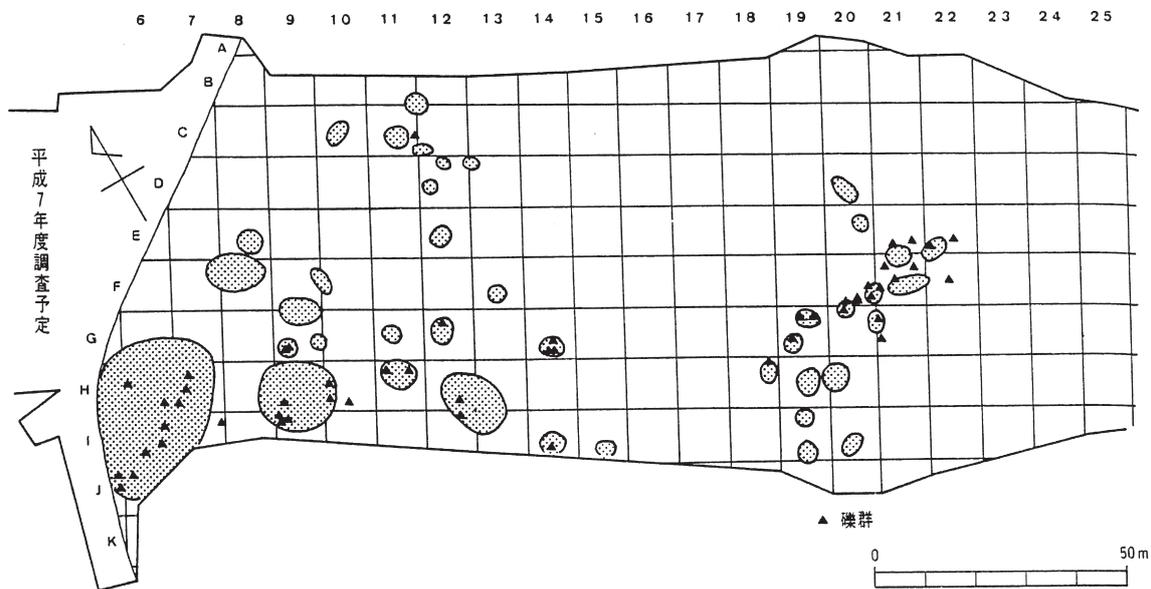
代ナイフ形石器文化期の多くの遺物と遺構が発見されている。

旧石器時代の遺物は、全体に万べんなく出土するのではなく、直径3～5m程度に集中して出土し、このような出土状況は石器群ブロックと呼称されている。

**2 旧石器時代ナイフ形石器文化期**

シラス直上のVIIIb層から旧石器時代ナイフ形石器文化期の遺物が集中する石器群ブロックが40か所以上確認され、総数1万点を大きく越える遺物が出土している。ブロックにはチップが多量に出土する小ブロックや、比較的広くて石器が多いブロックなど多様である。

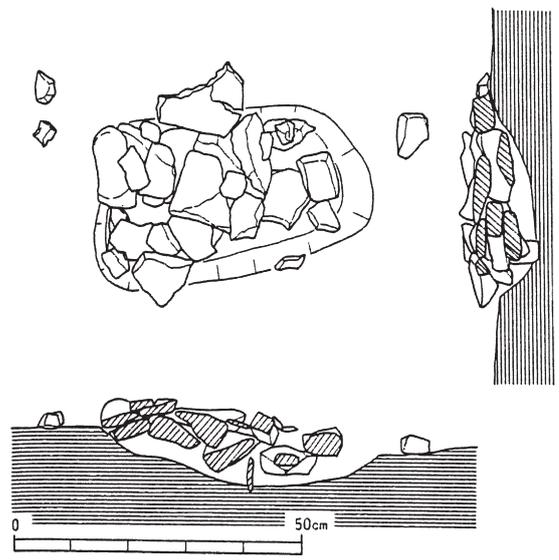
出土した石器はナイフ形石器・台形石器・搔器・



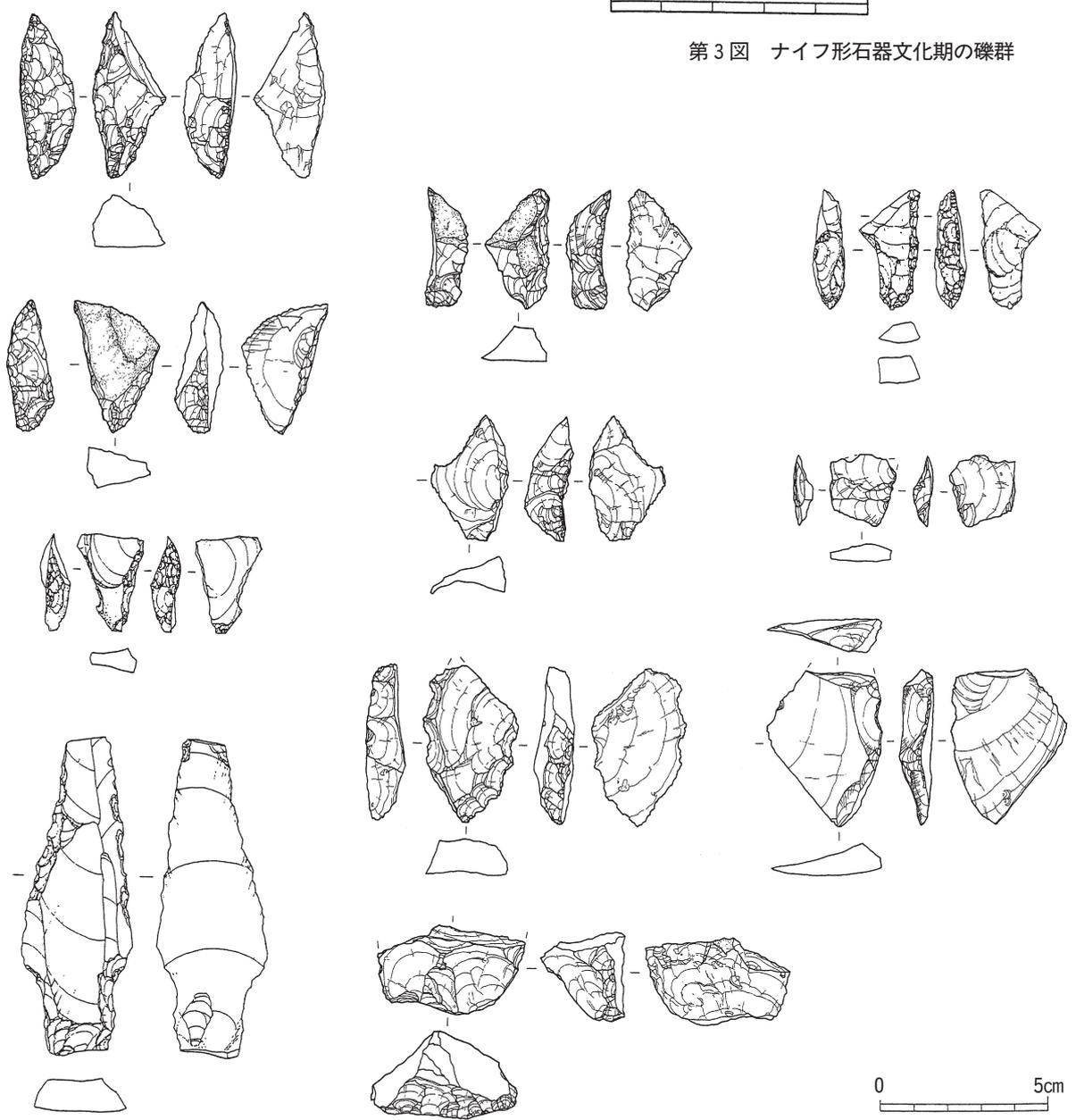
第2図 旧石器時代 ナイフ形石器文化期のブロックと礫群

削器・彫器・敲石であり，ほかに数点の剥片尖頭器と三稜尖頭器がみられた。ナイフ形石器は不定形剥片を素材とし，切出し形に整形された特徴的なものが主体であり「狸谷型ナイフ形石器」と呼称されるも石器に使用されている石材は黒曜石・頁岩・安山岩・鉄石英・ギョクズイなどが認められている。

遺構では調理施設としての礫群が50基検出されている。礫群は下面に掘り込みを持ち，赤化した礫の集中度が高く，内部や下面には炭化物が認められている。



第3図 ナイフ形石器文化期の礫群



第4図 ナイフ形石器文化期の石器

### 3 旧石器時代細石刃文化期

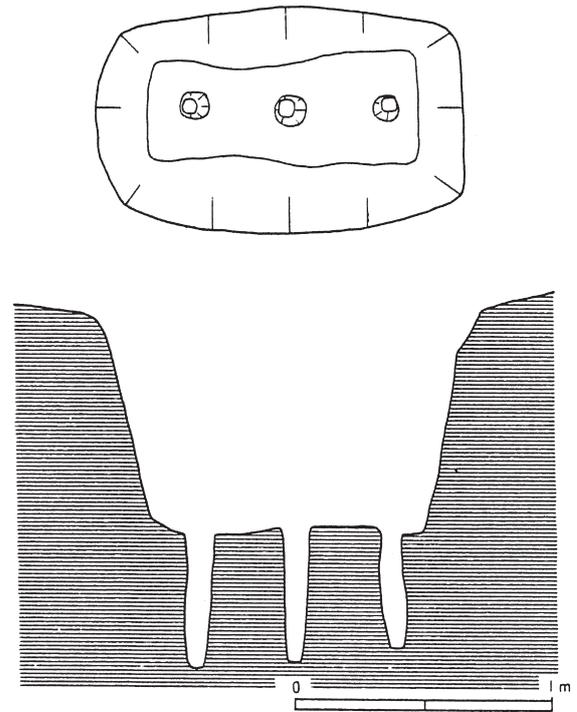
薩摩火山灰層直下のVIIa層～VIIb層からは、細石刃文化期の遺物包含層であり、遺物が集中する石器群ブロックは約45か所検出され、総計8万点を越える多量の遺物が出土している。

出土した石器では多量の細石刃を主体として、削器、搔器、打製石斧、磨製石器、礫器、磨石などが出土しているほか、細石刃を剥ぎ取った残りである細石刃核も1,000点を越す数が出土している。

細石刃核は野岳・休場型、船行型、福井型、畦原型、加治屋園型など多様であり、またこれらの中間的な形態のものも多く認められ、接合資料により製作工程が復元できる資料も少なくない。

使用されている石材は、多種の黒曜石、頁岩、砂岩、鉄石英、ギョクズイ、凝灰岩など多様である。

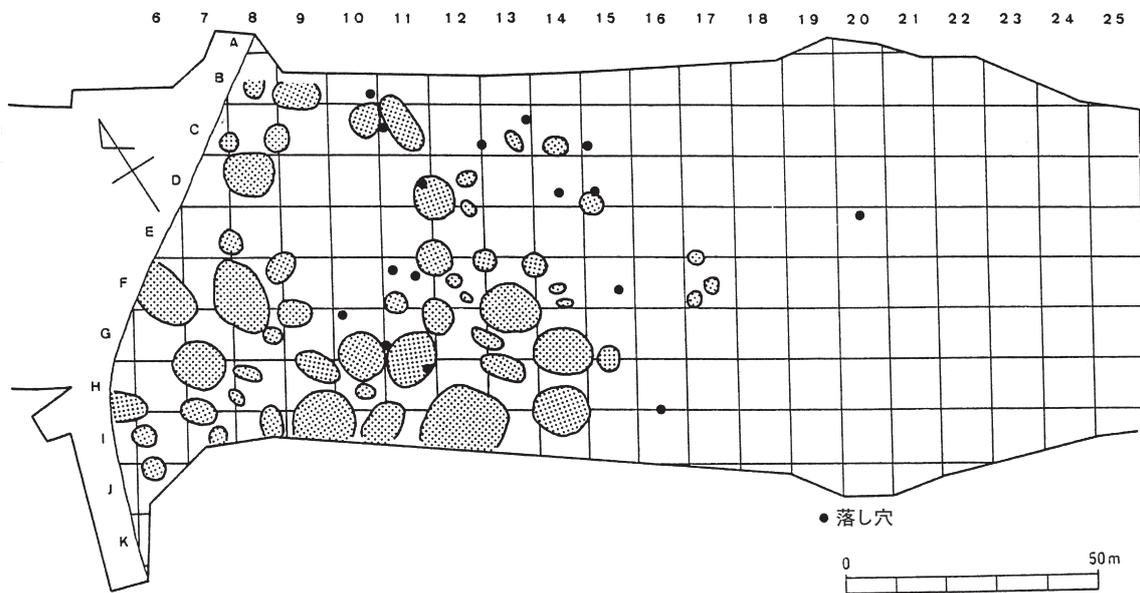
細石刃文化期の遺構は、計16基の落とし穴が検出されている。落とし穴の平面形はほぼ長方形を呈し、底面にはクイ跡と考えられる小穴が2～10個認められている。底面の小穴は直径10～15cm程度で深さ約40cmのものが1列に並ぶものと、直径約3cm程度で深さ約15cmの細い穴が数列に5～10個認められるものが存在した。前者は小穴の中に直径3cm程度の細かいクイの痕跡が2～3本明瞭に観察されるものもあり、小穴を掘って細かいクイを数本埋めたことが明らかとなった。



第5図 落とし穴の平面図と断面図

細石刃文化期の石器群ブロックと落とし穴の関係については、落とし穴の埋土の上面にブロックが形成されていることより、落とし穴の形成は細石刃ブロックのわずかに古い時期であることが明らかとなった。

このような下面にクイをもつ落とし穴では全国的に最古のものと考えられる。



第6図 細石刃文化期のブロックと落とし穴

#### 4 縄文時代

縄文時代の遺物も各時期のものが出土している。

縄文時代早期では前平式土器，吉田式土器，手向山式土器，押型文土器，塞ノ神式土器，桑ノ丸式土器が，前期では轟式土器，曾畑式土器，深浦式土器が，中期では船元式土器が，後期では指宿式土器，市来式土器が，晩期では黒川式土器が出土している。

石器では石鏃，石匙，石錘，削器，磨製石斧・打製石斧・石皿などが各時期出土している。また特筆されるものとして前期の石庖丁形を呈する块状耳飾りも出土しており，山陰地方との関連が示唆される。

縄文時代の遺構として集石遺構（早期・前期・晩期）や土坑（早期・晩期），平面円形を呈する落とし穴（後～晩期），掘立柱建物跡（晩期）が検出されてい

る。これらのうち掘立柱建物跡については黒川式土器期のものと判断され，この時期としては南九州で初の遺構として注目されている。

#### 特徴

仁田尾遺跡は旧石器時代ナイフ形石器文化期と，細石刃文化期の二時期のものであり，遺物の量など全国的に最大規模の遺跡として重要であるだけでなく，縄文時代の移行期としても多くの示唆を与えるものとして期待されている。

#### 資料の所在

出土遺物は，鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

（宮田栄二）



写真1 落とし穴写真